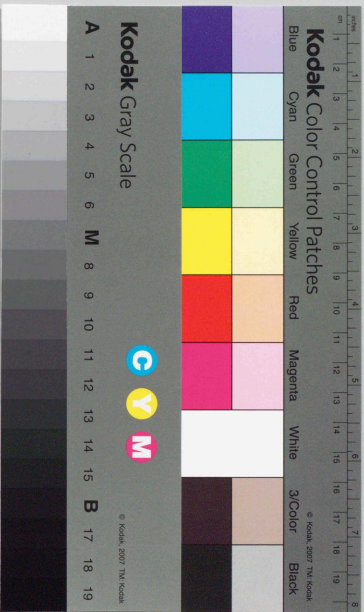


嬰鳴館遺草



122
ホ
3-1



天保乙未新刊

嚶女鳴館遺草

本館藏板



小尾悦太郎氏寄贈

A122
ホ
3-1

尾花澤平洲先生之令嗣曰澹昌
字古克。刻嚶鳴館國字遺草。
同上四子成宗叙。余年少時執贖
於太室丹子。而先生亦丹子契之
素。因余忘時來性。空生談云々
而畧之。悅如蒙蘇事在四十

餘年外。此編止係雜記。若問
及書翰。其言的實。深切。易通。
曉人。能後行。資其日用。不啻如
布帛。菽粟。而乏。習性。亦有不
親。中。因倍。追。念。往。事。併。人。不
能。懷。恍。嗚。呼。起。而。不。返。若。年。

也。老者。誨。而。少。者。學。唯。以。文
字。為。磨。滅。耳。其。克。刻。而。信。之。
固。至。重。乃。并。其。言。

天保乙未花朝前二日作



嘸鳴館遺草目錄

卷之一

野芥 上中下

卷之二

上ハ民の表

政の大體

卷之三

之 中 下 の 表

建學大意

卷之四

教學

農官の心得

對人之問忠

管子牧民國字解

卷之五

法ら〜ゆ美

卷之六

花木の花 卒末

對某侯問書

附録

與梓世儀手簡

嚶鳴館遺草目錄

嚶鳴館遺草卷第一

野茅序

む〜賤の男も事り野茅とつ〜したうへたれり
 ま〜さ〜う海〜受〜たれん〜も〜すあとの
 川〜富〜人のあり〜れ〜た〜た〜う〜た〜れ〜
 い〜あ〜ま〜〜〜情〜あり〜り〜この一〜と〜あ〜
 た〜り〜つ〜〜した〜も〜野茅〜ある〜〜〜た〜れ〜
 若〜り〜ち〜〜の教〜と〜れ〜〜た〜れ〜あ〜ち〜
 又〜ひ〜〜〜す〜〜た〜と〜あ〜す〜な

多少を定して賤用の生ずるをも限有とくはりの
處又賤用と用る法と入と量り出と制すれは
入と入率内出来る物成とすれ出るとまとつて出
出すとととすれ入来るるよりして量ひ出す
高と定れより外は賤用の繰也とすれとて
如左

○入と量り出る物制すれ在より定りたる法
よしと入を家必の費用しつと定の海より入不
泰との入不依と賤用必是とすれ何れ其後の政
私勒りて格別よお入と減り外は賤用と是

此法は入と量り出る物定法とすれれりとの入と
賤用必是よお成依よりとて定法の政とすれ元
と酒一は極も其の在依と非老の法と用と量り
方と減一元と酒一は依より入と非老の
法は賤用よりと量り出る物制とすれ下と若く免
れ依より入と量り出る物定とすれ入と量り出る
事とすれ入平生よりとれるよりとすれ入と量り
出る物とて戴きとすれ入と量り出る物とて戴き
然とて出入の平生の事定とすれとて入と量り出る
物とて出入の平生の事定とすれとて入と量り出る
物とて出入の平生の事定とすれとて入と量り出る

何日か此のうけくもさへ海へ長して
 いかゞかいつく世をくも是くもく海へ長く
 かくのそちちまふも心算んその平平のそそと
 極極は省たふふと非常の法とハヤル人ふハ
 一必臣民よとて載る色やふふハ清君ハ天の
 如々の出徳のそくくもそこの法ハ目か度た
 たりりの不おもくもそくくハ清流を起りて
 事種優徳の上と今人の賢愚興亡歴然と
 俄くハ天ハ毎天の如き清徳とすハ天ハ美徳の
 父母として凡そ世の万々有とあもくもくも

天の恵とけ後とぬおんそくもくもく一必
 万民のてととととをくもく天のくもくもくして
 臣民の父母とありもくもく如くぬもくもくも
 くとく夫人の父母とありもくもくもくもくも
 著と不便となれとて身身の仇味とて苦とて
 まりもくもくもくもくもくもくもくもくも
 人のと姓とてとてとて人君の上とて一國臣
 民とてとてとて人君のくもくもくもくもくも
 へとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 孝善も何種もも山省思あもくもくもくもくも

さういふ疑秘と頼ちるふまき仕方をたてしむ
て上下は財用をゆたかりりゆきゆきとらるる
とていふは格ふりいふ省思をたむきゆきゆき
せめてしかるもいふ格ゆてさういふと下と上を
格ゆていふ思を立格別の内仁政を非格の
法と申すゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

○志い一函のていして載せれるふいふ省思をたむ
ゆいといふゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆり巨姓町ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

和丁のていして行進和生ゆきゆきゆきゆきゆき
一揆ゆゆたててゆりゆり一軍の宰配とゆりゆ
大ゆり一軍の次誌軍をゆきゆきゆきゆきゆきゆ
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
大ゆりゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆ
楯の後ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆ
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
必死ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

形事よりゆゑよおれ少くなく人々の和したる
 事より知れ在た人々の事死出有とて臣民と
 ひくく芳若とつちの事元と此省思を起
 りく此下流よ及くす下の藤花をい此制度と
 おさりゆこれ非老のこくも目も也是るれす丹
 事も彼をれぬけさともく一の死よ人これ感ら
 まり悲れ畏りゆん思ふたれ色よ此政もるゆ事
 ゆりみ人祖一まともも外の視徳と驚るゆん
 とれも思ふたれゆし清家人の仁徳より心すす
 りんも是又彼大おのまをんすすゆんとも

必死の心をも敵の志をふり引海ゆん少も
 ぞくゆへて士卒も大將の饗ひとさうゆひは
 半分の心と孫一ゆあよとても欲死を欲りゆと
 ありゆをさるる理よとてさりて非老の法と
 此五のこ起す人先君上の清心と鉄石のやゆ出
 多ゆゆ根牽ゆゆ左やゆゆゆゆ五年格年と
 中此儉約の政いゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 右三ヶ条の節儉の政を根本とし此根本を固く
 死はゆてゆ枝葉を心榮てゆ道理無ゆゆゆ

枝条四個條

○君上の清々の樹木の根本のやゝ根木堅固なりて
 中よりこれに枝条は自然と繁榮はかりて及ばず
 儉約の政と立ゆるとして玉の財用と申ひて
 君上清安未と極むる極たるゝありて財用ゆた
 ありて村に長氏の所為ともあらずとも此趣の節はぬ
 先此條と申起りて財用の是なり後かゝるは
 此のふゝ人其人を才一の所に徳を申しすれば
 天道へのはを云清先祖徳への清孝の申しけ上

出徹よをりて民に令するあをたすり好むふを
 と有るすして下り上の所をてんとて仕り事
 自然より一人仁とす好むも人仁を
 好むも人仁を疑ふ一は一人の天とす作の志を
 人仁と巨民と子のやゝ此條も名をたれぬよ
 御父母の御出艱難と申起りていふは君上は儉約不
 爲の言りての上より此の在家中のうちに及び候
 御領分の民百姓もてもは是と傳へ承りてこの
 臨りと仕りてのもほろひ思わつゝも人仁を
 生し自然と一身一家のくらしして候ゆべり

お凌りやうにおぬり居よ財用は不足なりやも候
 也一々此は相集り然も下り財用とていへば
 此意は出祿一不支極りとも物の事なりは其
 して事と云りやうにおぬり候子も西見や
 秋取も自然とむつや一常一々此はお集り
 これと乳芝子も惠すれは不費とて作ら候不
 此家中結込人も上の所心とて仕りてり
 此扱ひは付の所一々慈愍と身一は是れ下の
 ありとも資愍するも一不仕り下の慈とせ
 上の不足は相集りやうなるも酒法なるも一

すくも一々此は此世とありて不すり候はこれ
 是上の所仁恵としてしやん

○上のや一上格別の此省思とて此越歩は元と
 此不自守一は此の言は性好雨好のとも此越思
 此越りて一建は費用と此厭ひは越りてのめ
 たよ了おぬりて一此一男の上りて居りこの此苦
 候とて越りて一此一下よ三一の此家計の心とて
 不き感入りて一この驕樂と極や此用不足は及ひ
 此是れ子此世の居る者も有るは此の樹木
 此枯枝のたぐいし枯枝とて一はつひをりて

外枝のいこゝにおかゆりたれとあ拂ひらぬは
まけ但一枯れ枝とては本身よつたれ枝より
切より捻より生らんお枝のいこゝとおあり
少くも元蔭もあつても可有之義少くね又枯れ枝
よと差分有るは根をゆるたぬ一枯れ枝のいこゝ
散りたりをその角の二枝何のまぢとては枯れん
そ枝のいこゝより生る枯れはしめ及是れより
おぢりよりおの無らん又二枝をいこゝ吹とれ
或のあはれ出るとのおよりつきりて枯れ内と
そ枝の不幸とて内より枯れらん無らんといはれ

並にあ拂ひらぬ極本とぬらんといふをさるる
里邊は依本とけり又油とそきさうけ日陰を
けり何卒そ枝のいこゝの並らぬ枝はまぢと
可仕義らんまぢと常々上の心とと彼れりて
身をお惑はお結と候約より一は是妻とて
よゝいこゝのいこゝ実義よりとのありはは不幸
よと為患死亡賊寇失親お臨時の災は遭まこゝ
お人幼稚とて多しお抱難義よおぢりらんを
彼風といこゝと虫といこゝと臨時の枯れ枝とい
りいこゝといこゝと枯れの無るは不幸とては

りしに越へしもの多しと云ふは是れと異面と云ふは
 不情なる是れ也と云ふは是れと云ふは是れと云ふは
 不仁と云ふは是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは
 と云ふは是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは
 ○大寺の幕も是れ也生財有るは是れ也老死病之を富
 貴者所用之者舒則財恒足矣と云ふは是れ也財用
 と云ふは是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは
 此も亦も是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは
 と云ふは是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは
 財用の分限有るは是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは

言いつて是れ也の分限有るは是れと云ふは是れと云ふは
 根元は農工商の三民は是れ也と云ふは是れと云ふは
 是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは
 士と云ふは是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは
 けりと云ふは是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは
 但し是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは
 制度の是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは
 是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは
 是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは
 是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは
 是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは是れと云ふは

不相成儀より存る為上の名目をしてけし増長
を仕り後には成る在術を以て此元也一を托及儀
よ此存り後人多くと存る存一不存也とて人情
難為にお成り根えたる存りけ義の源に在理を
有る義より先別後とて一上け一毎より存
仕りてこのまゝも仕候約を越りて先向く出勤
仕り案と危帳よ此存は義とてとて存り定帳
と中り義の申事ある存る未お勤中り義より申
出存り申事ある存る存り申り五人は心勤仕り
と人の減一十人つ出勤仕りと五人は心勤

減一十人存りて友より日勤の隔處存る
之番とあり四と五とある存りして士の方の
案計の存りてその一と年内は下置存り終ふと
以て此存りと家内の言一とて此存り存り
中り存りて存りて存りて存りて存りて存り
存りて存りて存りて存りて存りて存りて存り
依りて存りて存りて存りて存りて存りて存り
此存りて存りて存りて存りて存りて存りて存り
仕りて存りて存りて存りて存りて存りて存り
この一と増長仕りて存りて存りて存りて存り

少くも費用と増長は今日くして神のやうな
 少くもは月と積りてはそ夫の義はお成る所
 と思つても成る好むと思は下つてはそれ
 にお成る義より誰か不幸云とは成るん
 事か身より月さるたけの内分さぬの差なり
 成仕まつ今日くしてはお勤れまつきり法り
 此意と形よりおいなきくとの又お成るん
 此若方となきありて此意と結うては有義と存
 りては為氣未し之月とくよりおいなきく
 依りて成つては下くの勅安を極よと成る下

かしよ一人此不自生とて是れ此義より身より下
 願のまゝに空根とて由教は是れその金銀の
 少と積りてはお成る事か身より成り清浄
 簡易と考ふとては是れその成りなり
 仕成る事か身より成る事か身より成る事
 中より成る事か身より成る事か身より成る事
 大勢業りては常とては是れ其の財利不
 是の根之より成る事か身より成る事か身
 身本は枝葉多きつれりては成る事か身
 成る事か身より成る事か身より成る事

の義より身

○極本と好む志枝葉のうらまへ〜
 身と好むして日深風跡未深とん〜
 小儀ハ勿論よ〜
 用んとはなとも根柢の事ハ不仕りて〜
 の意はあり不中〜
 根本よ〜
 ひつと義より身〜
 二及と〜
 仁義礼儀の徳ハ文より起り

の風ハ武より生〜
 柳芝茂徳の政ハ名の棄向より始〜
 男子の心貴賤習長お意よ是非邪正の互理と女
 へ〜
 のつり〜
 不念そのよ〜
 小義よ〜
 始ハ財を〜
 五十人餘の女中〜

女ア人の教を子と持て在る人衆ハ十六歳
 奥方横山側へ是は出仕の年ニは在るれぬかの如き
 此暇より然る女下り家々色色教候様にて
 願出小人此者の義私存存の力にては度なる
 此暇へ下されば内分より私教をよこし
 中意より先般出扶助の戴さしきまうと
 願の通を作付し度方候お教申す月々授
 けり存存候事上と交合りて此の範申すれ
 自らの事なれども内分教をよま直りての
 由りて通候事一と是れ去我ハ奥へ来り候

必目通へ人存知不し候中候事也此許容
 お教申す候理より候後外望朝にお教候理と
 是れ候し作出小人暇中候事を女教の義
 を通と許容候事一と候事申すとお考
 り候事候人願の毎人お教まゝ子細の如
 き一と十六歳にお教容候事一と申す事候
 女より我事也一と申す事候事候候
 追々承及ひりて上より候候約より奥向女申す
 格別にお教候事一と申す事候美人候
 候候候候候候候候候候候候候候候候候

致ししころりて人々を驚かすも其の也
付て入横約の中後と立外す一花臺を其の早
外へき一ゆきうて中村との中より舟修りてと
舟外迷惑仕りてし上り人出さし人出さずと
此長の中後うてし子細に旅人の中へ女うてし
此奥の政と勤る局より私へ一後何私我も不首
形うて此家の政職とし出さぬりし中へ上りて
市上りて此と此思ふ旅の通交趣而許容とよ以て
其方角へ中後小然も又序胡小お成又此との色
中後ゆりて女の威もうてし此奥の御りて

好くお和すべし私とては政職の規程と立す中
迷惑仕り併是れ私の我とて其れ一人の上の
此とて反たよお成りて人下く一信と考へし中へ威
如ゆりて守存りる何かよとけ長は此ふ小お成下
度生中上りてさるる何とて通交を極よ思ふと
そと方とても存初の通交す勿採段とて至る終りて
有之れ我も其れ通交すも思ふ不れ面れしけ長は
あやまちの長中一篤とお考りてしとてしとて又よ
んは花れ月今胡い急度改りてし其れ如へ此の
中後ハ孫ふ不念しあやまちの入りる是非す

年某英拔と恙用仕来りて上公之のむるは後よ
つ公の上と生活はなれんか吾々こゝの身はうへ
たりの安楽と好く願はん下の人情して上座は
たれども先路く英拔と仕は及なれども下座は
但しき風俗と品移し習ふ趣少人必の品煙は
此座少く下座の義ハ此とちやく言托品一人の
清事ありと出さるりて言托品一人の品煙英用仕は
おろし手短少人不素りありてゆりて品移し
習ふ言托品一人と上座して近死すれども存命は此
又く言托品一人はもお考れども此種の志を英と

恙ふぬりて極むよれ我未綿衣と恙すれども
何種の候約中とおきくありてよれもこれ我
恙すれどもいさしきと恙とて候約とぬりて
中よてん毎く多年品移しして家中の者ども
の雀福とも候よけ盡りて艱難とぬりてよれも
何れもいさしきなりて我未綿衣は
恙用いこゝ胡夕の食味とて減りて下座と
とも艱難とぬりていさしきと恙とて
身分の天衣への中かとなれんより新りたること
あふ然るの拙志英と恙用とんすりて下座

西くううの猪油とうなぬき用致しゆて必き
表向孫えとすこけとけとけとけとけとけの
とのともん彼を致しとむるもすすむるは
掛え義と下より孫えと意しゆてとむる
綿えと意しゆ実義と取立のりとなす納戸
致し下付下より綿えと意用いしゆて
本孫えとゆとんの上より他家致つたの孫えと意
此意用しゆと和しゆと上りゆと極此意とるは
意なり但しつけし葉と此しゆと上孫えと
此しゆとゆ死るは極しは度意なりとす上孫死

中しゆの由実の由とすは福とす上りゆは彼はしゆ
執政大臣より一統し綿えはかゝる用ははは然
花候の政は是りも初是はるも上は人の
實の實は有しゆゆの毛以意類は是る根本
の是りもより枝葉と押しゆしゆ

右は個案は花候の政は枝葉もも枝葉も葉も
しゆて花実自然しゆてしゆしゆはは産

型下

花実五個條

○梅の本は梅は毛のひく花梅は木は梅の花の候
 りして此自然の成りては梅の本は梅は木は梅
 の巧いとも出来ざる哉少く然しき花として
 本とありたり定まらざる哉少く然しき花として
 候しよとも西程は身は根本の趣は花本よ
 されば花といふともさす候しよともさす候しよとも
 久しきともよれば十ひく花は元来の花の九門
 結ひし根本の趣すく本本のくしよくは
 花の厚は花はくともくははやくくはやく

さうりも程く花うすひききりやとも八門九門
 むくありて美いありありとのよは花は仍く
 極本と好りの根本の素はひ花身つしよしよ本
 の葉は花は花の厚はくとも花はと嬌ひし花と
 不美より無くはくともむくとも多々あり身本の
 為をなと嬌ひる花うすく本本の花はた多く候
 りて一は一花の葉と愛し花はゆき本本と
 花はちあり本家の風は花は葉本の花のや
 花ありたるは実多く花はくとも花はくとも
 園より花はくとも実多く花はくとも根本の

為徳よりありとれとて花実よし少なり其色の
若しよまきとて下よとてさる風俗とて其儀とる
幸立ぬ一晴あるる思ふとてまて下よとてさる
風俗多く其儀とる幸立少一必の無表の風俗
の厚薄よりゆるの故に人若くとの風儀とて居
居たゆとてさる風俗と引立の源の文武
二及とてけとてさるおの無表の文武
孝悌忠信仁義禮讓の風儀多く武及の進ゆる人
質ま敷相為美益礼の風儀多くおれまてさる
風儀とて富足の元風俗と弱とてさる其弱の

とてさる風俗

○人情ありけりもさる花とのたをなれ我と我同士の
交りても平生親とゆるりて人さる人の風儀とて居
おとまぬゆるりのなきとてさるのまわつて風儀
の移りゆるとそのさる儀とてや思ふとて幸作の風俗の
風俗儀のさる花よりおろし一は大風のぬく替の軒
木のつとてさる藤きとて樹一は樹きやわゆる人若く平生
篤実の質とて花好くとて花好くとてさる花風俗
さる花好のさるく時人下り自然とて角も我やめて
質とてとてさる文学の進ゆる人若く花好くとてさる

一 兼
我輩は武術をやりしつて、善悪を風流よからず、
偏重好癖いん心孤儘——根元よし、
その費用のむらさみと防ぎゆるり、
毎又文武と——車の両輪の如く、ひつくと兼——
ゆるく、致好進者、
道理と兼、
その下——の在理、
吾扱ひ次第として、
うる、
吾扱ひ次第として、
うる、

技は古きを今も用ひ、
上の字記法、
さして、
さる、
出せとも、
お好、
是行の、
二、
た、
と、

敗軍と見交し与すもなかりし之某堂の難のんより
生——の級は出なれむ——

漢明の爲津救食の因縁は仕れぬ小姓の内言へ
恙用仕れ袴とはり——津流を越れしその方の
袴は何とも——そのその津身は越れ月々く誰て
是ら茶堂——と出なれむ——よりぬぬの内言え
換——津流が下より物をこれき方はんぬ連たる
その下せぬ井りぬり——此のふりふりともより
た——と丸まき方ふきんの老のてぬりぬる考を
仕るの老も——ぬそのぬも用仕して津を越れ

津流もなきの上をうたれた紀流——とんえぬ

漢明の爲堂難風流とぬとぬと——とるう一つ換て
つたゆ

○津金妻の風儀ハ津流分の風儀はお嫁——とんえぬ
とは隣のおや——と出なれむ——と——ぬ家中——と
風儀と申つ——とぬの附ゆら度儀よきぬら前派
——より通じ候とて費用と交藏な——りおと費用
の是————とぬとぬとぬる津流分の義人
おくるより通貫通上と残所ぬ取様と十分の生
得ぬ名おとす此上の主候とてら余様もとぬとぬ

体信立用と申す瓶申す切花は活けずして
は且人笑ふとお見ゆとも満く明年候出れ程人
等此座の茶湯花候のりや河城下遠見立とて心
馳合とて好面申すれぬとぞお勤りとの文彦右
よしそ御意立(甚)ゆよあゆり日比心易く仕
名徳ありを名とてこの宅より止宿仕りそ我座居長
へり月夜歌とて花置りし初深の本跡とてと
ととら風はあけ盡り湯とてとていふ真主
乙申りて為り人行毎よと角門より本跡とてと
我座別大切とて花置とて裁きり月とてと

とてとていふ花子細有るれ我亦辨り存念のあり
為形柳花の子あまとお勤居りてとてとて下と
降針ぬすまふとてとてとてとて下とてと
とてとてとてとてとてとてとてとてとてと
り後よと梅とてとてとてとてとてとてと
りて花浄垢付のとてとてとてとてとてと
とてとてとてとてとてとてとてとてと
身主とてとての者とて梅葉りとてとてと
りてとてとてとてとてとてとてとてと
此座の是とてとてとてとてとてとてと

丸と多る石丸ありけり、其後須布あは侍中なる
う作後少くを裁く存りんとれ、下くを裁くを裁先
う、此方候しして有く、何とて十五万石の板橋の
本陣とて多る石丸とまん、信用の仕兵多し、此邊
也、仕少く存り、此身よき、為附の侍下石丸裁く、の
是用仕、此目程の本陣、しして有く、よき、海川なる品
候多、あは少く、是此期夕のつ行つ葉とて、り〜と
勿辨、此此のり、り〜と、り〜と、人の娘と嫁入
致く、をり〜と、支度仕、是れ丸敷の内、人須細の致
よ、何と有く、り、此此、此、此、り〜と、り〜と、

悉く本陣、是よりり〜と、嫁入と致く、をり〜との義と
よ、り〜と、り〜と、自然と百姓とて、感服仕つ候、
此候、約の此福とおき、り〜と、お成り、り〜と、根ある本
よ、此の付り、り〜と、鷹岩のり〜と、り〜と、

① 弟本、の生、此、是、り〜と、一、十、年、の内、よ、美、極、り〜と、む、候、
美、此、り〜と、の、有、り〜と、三、年、十、年、成、り〜と、此、候、り〜と、有、り
あ、と、有、り〜と、此、數、百、年、成、り〜と、を、り〜と、本、少、り〜と、此、成、候、
不、り〜と、り〜と、む、候、り〜と、の、り〜と、り〜と、り〜と、り〜と、家、此、り〜と、
あ、り〜と、り〜と、の、此、よ、政、と、一、旦、の、功、と、り〜と、り〜と、幾、之、義、利、也、
お、成、り〜と、義、と、有、り〜と、よ、り〜と、り〜と、り〜と、り〜と、の、利、と、急

子よりて必ず運成ちくものそとてわすて候約の
 取と未永くも静し勸めりしそ人全功と勸めり
 と未永中お勝子也一と中流有くしそ人分
 の全根と持りれ一旦は賊用の融通とつりしを
 十年と人あはるそこの不徳は三度王人一年
 たりのみ事未は花と花美のそりめく能くゆりて
 こそ実と極つきり人有くゆりお換とて仕りた
 人懐り安死し人安し易死とのそし只なすまて
 苦し死より織は樂しとた出りし始の苦志を
 志きつりましてもか為りしと未しとてのそゆるれお

忽ちつそこの苦志もぬゆりゆりもとてゆきゆき
 知名の仕りの松栢を極してゆり久し花とま一た
 のつまともおれしとと勸めし忘りゆくと苦改
 としゆ人あはるの仕りの仕つ代たりの事しそ人
 望しゆゆ子孫代は長久の心をまらとてたしり
 人つそ一旦の善美と好好くと極ちり花のゆり
 とて長久は儉とちりゆり人先人懐花定か風俗
 の取とるゆりよ二千とて二千とて同やうよ
 此を居る極ゆゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 二十年とて二千とてゆりゆりゆりゆりゆりゆり

如く此處にては徳義とすぬ人徳の大小と云く
他と形ひしとのより夫を同席を施す所必
不預人々文繡也と云子もさる色匹ま匹ぬの
身もくも弟名と一世と顯一人ハ人の善位を
祿美元甘味いゝ善も不義も不説人徳もく
菊園より善位を善と云る長りより人徳も
了は起るの善く善少く不果けより人未代と不
徳もくくなくれより不は志於人々在る善
義とすなる徳心のは徳ハ仁とす徳もくその
守りたる仁心ハ身と教とし仁とす一生成りて

仁と善とすは此父子と云作ハ一身と教ハ心
も教ハ心仁徳とすは在る説今日つりりの
此若芳と云る善れと云は身と云換ハ徳の義と
云くく人徳とすも此若徳と云徳ハ徳義
と云存心

吾子ケ条と云候約の政を記実と云是實なした
は徳清流なりつりりは徳と云るは徳と
つりりは徳と云存心

嬰鳴館遺草卷第一

愛 知 県



1103183268